

基礎・中級リスニングクラスにおける 学生の授業評価

津 田 信 男

1. はじめに

1995年 JACET (大学英語教育学会) が大学教員176名に実施した調査によると、教員が所属する学部 (学科) の外国語教育で、学生による授業評価制度を導入している大学はわずか26%であった。今後増加するものと思われるが、まだまだ、学生の評価なしに授業を行なっているのが現状である。授業内容を改善・向上するためには、学習者の意見を聞き、分析し、考慮しながらよりよい授業を提供すべきではないだろうか。

2. リスニングクラスの授業評価の目的及び調査方法

この授業評価の目的は、リスニングクラスの教材や授業内容について、一年間クラスを受講した生徒たちの意識を探り、今後どのような改善が必要かを調べるものである。調査対象は、筆者が教えていた某女子大学英文科、1年生基礎リスニング2クラス80名、2年生中級リスニング2クラス89名で、1996年1月、後期セメスター最終授業日に質問紙によるアンケートを行なった。

3. 使用教材と授業内容

1年生の基礎リスニングクラスでは *Listen Carefully* と *Interchange 1 Video* を使用した。*Listen Carefully* は初級者向けのテープ教材で、さまざまなトピックにおいて、電話番号、時間、値段、住所、服装や場所などを聴き、リスニングの基礎的な micro skills を身につけるのがねらいである。教科書の各 unit では Pre-listening から始まり、今から聴こうとする内容に関する必要な情報が用意されており、listening の各 activity をスムーズに行なうことができる。例えば、時間に関するリスニングでは、まず、学習者は時間の言い方を練習し、次に、空港で飛行機が何時に到着するかという案内を聴きながら、到着時間を記入する練習を行なう。クラスではこのテキストのねらいに沿った授業を行なった。

Interchange 1 Video では、日常会話をテーマにしたトピックを扱い、各 unit 3分前後のビデオを、クラスでは Preview として、文化的な情報、単語や表現の練習、ビデオの内容を推測する練習、次に、ビデオを見ながら全体的な事柄を把握する練習を行ない、具体的な内容を聴き取り、cloze type のディクテーションを行なった。その後、聴き取ったディクテーション

の会話の部分を使い、対話練習も行なった。また、内容のスク립トにある難しい表現に下線を引き、クラス中に覚える表現（7つから8つ）は丸で囲み、発音練習の後、スク립トを配り、難しい表現は説明し、丸で囲んだ箇所を暗記させた。そして、最後にもう一度ビデオを見せ、内容を確認させた。

2年生の中級リスニングクラスでは *Listening Tasks* と *Family Album U.S.A. Book 1* を使用した。*Listening Tasks* はテープ教材で、日常生活において、自然な速さで話されているアメリカン・イングリッシュを理解できるように、単語力、表現力を身に付け、より高度なリスニング力を養うのがねらいである。天気予報を聴いたり、街の催物について情報を収集するといった現実的なトピックを取り上げ、聴いた情報を地図に書いたり、申し込み用紙に必要な事項を記入していくなど、さまざまな練習を行なった。そして、リスニングの後、基礎リスニングと同じように、スク립トを配り、難しい表現を説明し、役に立つ表現を暗記させた。*Family Album U.S.A. Book 1* は、平凡なアメリカ人家族の日常をビデオで追い、毎日の暮らしの中で交わされる会話を聴き、聴解力だけでなく、アメリカの生活や文化に対する理解を深める。テキストでは、Preview でドラマを見る前にストーリーを一通り頭に入れ、Video Games で内容の細かい所を聴く練習がある。また、Focus In ではアニメーションやカラフルなイラスト、楽しい音楽や歌があり、各課で習った重要なポイントを学ぶ。他にアメリカの生活習慣や価値観を説明した U.S. Life というセクションや、ロールプレイやドラマの中で学んだ表現や文法の練習をする Intermission Finale などがある。クラスでは主に Preview, Video Games, Focus In を中心に授業を行なった。*Listening Tasks* と同じようにスク립トを配り、説明、暗記を行い、スク립トの一部を使い、ダイアログの対話練習、テキストとは異なったリスニング練習も行なった。

4. 授 業 計 画

授業は基礎・中級リスニングクラス共に週一回90分で行った。前期、後期セメスターの最初の日に授業計画（シラバス）を配り、クラスの目標、教材、成績評価、クラスのルール、スケジュールなどを説明した。

基礎リスニングクラスの成績は、クラス出席10%、Quiz（クラスで暗記した表現を英語で書いたり、学んだ内容の一部をテープで聴き、cloze type のディクテーションをする小テスト）60%（各学期5回）、レポート30%（生徒が好きな映画のビデオを選び、内容の概要と表現を4つ選んで、英語で書く。各学期2回）中級リスニングクラスは、クラス出席10%、Quiz（基礎クラスと同じ形式の小テスト）60%（各学期5回）、レポート20%（基礎クラスと同じだが、表現は5つ）、クラスレポート10%（クラスで映画を見て、概要と感想文を英語で書く。）により評価した。

基礎・中級リスニングのスケジュールは次の通りである。

基礎リスニング：

1回目	2回目	3回目	4回目
LC Unit 1	LC Unit 1	LC Unit 2	LC Unit 2
IV Unit 1	IV Unit 1	IV Unit 2	IV Unit 2
Quiz #1			

LC=*Listen Carefully* IV=*Interchange 1 Video*

中級リスニング：

1回目	2回目	3回目	4回目
LT Unit 1	FA El Act 1	LT Unit 2	FA El Act 2
FA El Act 1		FA El Act 2	
Quiz #1			

LT=*Listening Tasks* FA El=*Family Album U.S.A. Episode 1*

5. アンケートの内容と調査結果

アンケートは基礎・中級クラス共に10項目から成り、選択項目には生徒がコメントを記入出来る欄を設けた。

Q 1. 全般的にこのクラスは：

	易しすぎた	少し易しかった	丁度よかった	少し難しかった	難しすぎた
基礎	0% (0)	22.5% (18)	76.3% (61)	1.3% (1)	0% (0)
中級	1.1% (1)	11.2% (10)	82.0% (73)	5.6% (5)	0% (0)

注：項目によっては無回答もあり、合計人数が異なる。() は人数

全般的にクラスのレベルに関しては「丁度よかった」と答えた生徒が多かった。基礎クラスの主な理由として、「楽しかった」「*Interchange* のテキストがとてもやりやすかったと思う」「上手に時間配分していると思った」「難しい時があれば、易しい時もあった」などがあつた。

中級クラスの主な理由として、「興味のある、役に立ちそうな話題が多かったのでよかったと思う」「進度・内容共にちょうど良かった」「2冊の本を計画通りに、時間配分もきちんとして、内容も容易でなく難しくなくよかったと思います」「楽しく勉強できた」などがあり、基礎・中級クラス共に、教材、授業内容や進捗が多く生徒のレベルに合っていたと考えられる。

この質問で、二つのクラスを比べると、基礎の方が若干「易しい」と感じた生徒が多かった。

Q 2. リスニング力（単語、表現力も含めて）を高める上で、このクラスは：

	非常に役に立った	かなり役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
基礎	6.3% (5)	57.1% (45)	36.7% (29)	0% (0)
中級	5.7% (5)	79.5% (70)	14.8% (13)	0% (0)

多くの生徒が「役に立った」と感じている。その理由として、基礎クラスでは、「単語を教えてくれるのと、何回も聞かせてくれるのがよかった」「何回もくり返して聴くことで前よりも理解できるようになった」「映画など少しは聞きとれる量が多くなったと思う」「同じ文を何度も聞くというのがリスニング力を高める上で役立った」など英語を何度も聴くことによってリスニング力が高められたと感じられる。

中級クラスでは、「アメリカに行ったときに、先生が教えて下さった日常表現がすぐに役に立ったから」「少し表現力がついたと思う」「日常で使う単語を多く覚えることができ、よかった」「今まで知らなかった表現とかを学べたのでよかった」「実用的なものが多かった様だと思うので」「何度も natural speed の英語を聞いたので、少し耳が慣れました」「何度もくりかえして聞くことによって、きたえられたと思う」「自分でビデオ etc. を見て、あらすじを英語で書いたり、5つの表現を書く際に、何回も聞いたので、少し分かるようになったと思う」など生徒の知らなかった実用的な表現を理解したことや、基礎と同じように繰り返し練習することによって役に立ったと思われる。

この質問では、基礎クラスの方が中級よりも「あまり役に立たなかった」と答えた生徒が多かった。理由として、「単語や表現力はあまり出てこなかった様に思う」「単語力が上がったとは思わない」「リスニング力が上がったか自分ではよくわからない」「イギリス英語とアメリカ英語を1時間で聞かされたので、ややこしくなりそうだった」など、何人かの生徒にとっては教材があまりチャレンジではなく「学んだ」という実感が沸かなかったかも知れない。また、違った英語 (*Listen Carefully* はイギリス英語 *Interchange* はアメリカ英語) を聴かせて、理解させるという講師の目的と反したネガティブな意見もあった。

中級クラスでは「あまり役に立たなかった」理由として、次のような意見があった。「リスニングの力を高めるのは本当に難しいですね。先生の授業の内容は良かったのですが、自分自身の力がついていきませんでした。残念です」という意見もみられた。

Q 3. 使用教材について答えて下さい。

a. リスニング教材として *Listen Carefully* は：

非常によい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
15.0% (12)	65.0% (52)	20.0% (16)	0% (0)

b. リスニング教材として *Interchange* は：

非常によい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
30.0% (24)	62.5% (50)	7.5% (6)	0% (0)

基礎クラスのテキストを比べてみると、ビデオ教材 (*Interchange*) の方がテープ教材 (*Listen Carefully*) よりも人気が高いことがわかる。教材に関するコメントもほとんどが次のような *Interchange* に関するものばかりであった。「特に、*Interchange* のビデオは、おもしろかったし、聞こうとする力がついた」「*Interchange* は視聴覚的にたのしかった」「1つのストーリーとなっていて面白くて、日常会話などには役立つと思う」「*Interchange* はビデオなどを見ながらできるので良かった」

Listen Carefully のよい理由として、「何回もくり返し聞くことによってリスニング力がついてきたと思います」「絵がたくさんあって楽しい」があり、あまりよくない理由として、「*Listen Carefully* は簡単すぎる」「*Listen Carefully* は聞きとりにくかったような気がします」「*Listen Carefully* は子供向きの教材だと感じた」「*Interchange* と、もう少し難しめの *Interchange* みたいなものと両方やりたかった。正直に言って、*Listen Carefully* は好きじゃなかった」などがあった。

a. リスニング教材として *Listening Tasks* は：

非常によい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
25.0% (22)	65.9% (58)	6.8% (6)	2.3% (2)

b. リスニング教材として *Family Album U.S.A.* は：

非常によい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
44.9% (40)	46.1% (41)	7.9% (7)	1.1% (1)

中級のクラスでは、両方の教材を「よい」と思っている生徒が多かった。しかし、ここでも基礎クラスと同じようにビデオ教材の方が人気があり、「おもしろい」や「楽しい」と答えている生徒が多く、「*Family Album* のフォーカスインがおもしろくて大好きです」「*Family Album U.S.A.* はみていてすごく楽しかった」「*Family Album U.S.A.* はおもしろかった」「*Family Album* の方は、話の流れがあったので毎週楽しみだった」「*Family Album* は内容も分かりやすくいいと思います」など肯定的な意見が殆どであった。「あまりよくない」と答えた一部の生徒は、「*Family Album* は易しすぎる」「*Family Album U.S.A.* の質問が簡単だった」などレベルが低いことを理由に挙げていた。

Listening Tasks の良かった理由として、「リスニングタスクが好き」「日常の話題を扱っていたのでよかった」「*Listening Tasks* は常識として役立つそうだった」「*Listening Tasks* はやや難しかったが、役立つものだったと思う」「*Listening Tasks* はためになると思うが、聞きとるのが難しかった」などこの教材は実用的で役立ったようである。ただ、レベル的には少し難しく感じた生徒が多かった。

Q 4. 教材の内容を理解するための練習（リスニング、スクリプトを使つての練習など）は：

	多すぎた	少し多かった	丁度よかった	あまり十分ではなかった	十分ではなかった
基礎	0% (0)	6.3% (5)	86.3% (69)	7.5% (6)	0% (0)
中級	0% (0)	19.1% (17)	77.5% (69)	3.4% (3)	0% (0)

ここでは「丁度よかった」と答えた生徒が多く、基礎クラスでは、「何度もくりかえしテープを聞かせてくれたので分かり易かった」「聞きとれなかったところの補充になった」などの意見があり、中級クラスでは、「あまり多すぎると、単にその時覚えてあとでは、すぐに忘れてしまうけど、丁度よかったのでけっこう覚えやすくてよかった」「1つ1つの大切なポイントをきちっとおさえていてよかった」「英語の会話をちゃんと理解できる量だった」「スクリプトがあると分かりやすくていいと思います」「スクリプトはとても役に立ちました」「読みの練習と聞く練習ができてよかった」などがあつた。

中級では「少し多かった」と感じた生徒が基礎クラスよりも多く、「リスニングは少し多いように思った。スクリプトは、あつて良かった」「授業中の暗記はいらないのではと思う」「難しくてほとんど聞きとれなかった」などの意見があつた。

Q 5. 授業の終わりには教材の内容が：

	非常に理解できた	かなり理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
基礎	13.8% (11)	76.3% (61)	10.0% (8)	0% (0)
中級	19.1% (17)	75.3% (67)	5.6% (5)	0% (0)

ここでは、殆どの生徒が授業の終わりには教材の内容を「理解できた」と答えたが、コメントを書いた生徒は非常に少なかった。基礎クラスでは、「授業の後は満足感があつた」という意見があり、中級クラスでは、「何度も見たり、聞いたりしたので」「ビデオを見たからよく分かりました」「毎回スクリプトの一部を覚えたのでよくわかつた」「先生の作ってくれるスクリプトのおかげです」など、中級に関する限り、Q 4でもあつたようにリスニングを理解する上で、スクリプトが役に立つたようである。

Q 6. 毎回の授業の速度は：

	遅すぎた	少し遅かつた	丁度よかった	少し早かつた	早すぎた
基礎	0% (0)	18.8% (15)	78.8% (63)	2.5% (2)	0% (0)
中級	0% (0)	13.5% (12)	71.9% (64)	14.6% (13)	0% (0)

基礎と中級クラスでは、少し違いはあるが、多くの生徒が授業の速度は「丁度よかった」と感じていた。基礎クラスではコメントを書いたのは一人だけで、「すこし早かつたような気も

する」とあった。中級クラスでは、「テンポよく進んでいてよかった」「遅すぎて、あきることもなく、急ぎすぎてしんどいということもなくよかった」「時間配分もバッチリ」「あまり眠くならなかったので、よかった」との意見があった。

基礎クラスで「少し遅かった」と答えた生徒の理由として、「もう少し進んでもよかった」「VTRをそんなに見なくてもいいかなとも思った」で、中級クラスでは、「ファミリーアルバムを最後まで見たかった」「*Family Album*の続きが気になります」「ちょっと1つ1つのところで時間をとりすぎていた気がしました」などがあった。

また、中級クラスでは「少し早かった」理由として、「表現を覚えるための時間がもう少しほしかった」「先生の話し方が少し速くて聞きとれないときがあった」などの意見があった。

Q 7. 授業の中で何か違った種類の練習があればよかったと思いましたか。もしあればどんな練習か書いて下さい。

ここでは、さまざまなコメントがあり、まず基礎クラスでは現状で満足している生徒の意見として、「この授業の練習が丁度良かった」「十分だと思います。単語のテストがもうちょっとあってもよかったです」などがあり、発音の練習として、「聞きながら発音する」「ヘッドホンを使い、1人ずつ聞いて発音する」などがあった。リスニングの練習としては、「もっと映画やニュースなどのビデオを見たかった」「もっと身近な映画を見たかった」「色んな（テキストに関係なく）ビデオを見られたらよかった」「映画や歌の聞きとり」「もっと歌が多ければ良かった」「歌をきいて、その歌詞を聞きとったりするのはどうでしょうか」などリスニングの教材として映画や歌などに興味をもっている生徒がいた。他に、「nativeの人との会話」「会話の練習」をしたい生徒もいた。

中級クラスでは、「今のままで良いと思う」「私によく合っていた」という現状のままでいいと思っている生徒がいた。また、基礎クラスと同じように、発音練習を望んでいる生徒は、「もっとイヤホンっていいのでしょうか？マイクを使って自分で聞きとり・発音のできる時間・練習がほしかった」「ヘッドフォンを使って natural speed についていく練習があればいいと思いました」「自分の発音が聞けるように、テープを活用した練習とかもしてみたかった」という意見があった。リスニングに関しては、「もっと映画等を見てやりたかった」「映画などを使っての練習」「ニュースやスポーツ番組とかも見たかった」「はやりの英語の歌を毎回聞く。歌詞のプリントを配る」「検定試験などのヒアリング問題をやらしてもらえればなお良かった」などがあり、他には、「実際にクラスの中で会話してみるともっと理解できたと思う」「プレゼンテーション」「読む練習の回数を増やす」などがあった。

Q 8. 評価のやり方（小テスト、レポート、出席などの割合）は公平（fair）だと思いませんか。

	思う	どちらとも言えない	思わない
基礎	86.1% (68)	13.9% (11)	0% (0)
中級	87.4% (76)	10.3% (9)	2.3% (2)

生徒は既に前期セメスターの成績結果も得て、評価法についても経験があるのでこの質問には答えやすかったと思える。ほとんどの生徒はこのクラスの評価のやり方には納得していたようで、基礎クラスでは、「日頃の行いをしっかりしていれば評価もそれなりに出るという点において、やればとれる授業なのでよいと思う」「小テストがかなり評価に影響があるのでちゃんとしていないといけないから結構大変だった」「自分のペースでレポートとか出せて、丁度良かった」という意見があった。

中級クラスでは、「出席や小テストをちゃんと重視しているところがすごくよかった」「私はとてもこの評価の仕方は良いと思った」「やる気がおこる方法だと思う」「日頃の努力が評価されて良い」「レポートも大変だけど、いいやり方だと思うし、小テスト、出席もはげみになった」という意見があった。

「どちらともいえない」と答えた生徒は、「出席率をもっと重視すればいい」（基礎）「小テストで a や b にわかれているので簡単な方と難しい方が出てよくないと思う。横のカンニングはしないから一緒にしてほしかった」（中級）「もう少しレポートを重視してもいいんじゃないでしょうか？」（中級）などの理由を述べた。

Q 9. 小テストやレポートについて何か感じたことがあれば書いて下さい。

まず、小テストに関して基礎クラスでは、「小テストは授業内容を確認する上でよかった」「試験するよりは、小テストの方が毎回適度の緊張もあってよかったと思う」「小テストは2週間に1度というペースで定期テストがないというところがよかったと思う」「最後にテストをするより少しづつテストしてもらえてよかった」などの意見があった。

レポートについては、「レポートは、表現を聞き取ったりするのがけっこう大変だった」「レポートはまとめるのが難しかった」「レポートはやる前はいやだったけど、やってみると楽しかった」「レポートがすごく勉強になった」「レポートはかなり時間がかかってしんどかったけど、やり終えたときの充実感がたまらない。それが評価されていたのでうれしかった」「レポート作成は聞き取る力がつくし、聞けばきくほどおもしろいので、良いと思う」「レポートは、書くのは大変だったけど、英語を理解しながら映画を見れたので楽しかった」など、レポートは大変だと感じた生徒もいたが、それなりにやりがいがあり、役に立つと思った生徒もいた。

中級クラスでは、小テストに関して次のような意見があった。「小テストでかなり評価してもらえるのでそれは良かった」「最初の方は、まだ慣れていなかったので小テストが少ししん

どかったですけど、今から考えてみたら小テストのおかげで少しは勉強したなあという気になりました」「大きなテストより小テストの方が負担がすくないのでよかったです」「定期的に勉強できてよかったです」「小テストとレポートがかなりのポイントをしめているので、やる気が出た」「小テストでいろいろな表現をおぼえることができたし、レポートで英語を聞きとろうという意欲がわいた」である。

また、レポートについては、基礎クラスと違い、中級クラスではレポートの数が一つ多いため、「レポートは大変だった」「レポートはかなりしんどかった」「レポートは、すごく時間がかかった」「レポート3つは多いと思いました」など大変だったと感じた生徒が多かった。

しかし、基礎クラスと同じように役に立ったと感じた生徒も多くいた。「レポートは自分自身役に立った」「レポートは今まで他のレポートよりも楽しくてやりがいのあるレポートだった」「英文で書くレポートは大変だったけれど、楽しかった」「映画を見てあらすじを書くのは、文章の構成の練習になったし、表現を聞くのにすごく集中ができてとても良かったです」「レポートは大変だけど、いろいろ力がついたと思う」「自分の好きな映画を見てレポートが書けるので、楽しみながら英語の表現を見つけることができて良かった」「映画など、私達の興味のもてる身近な英語を真剣に聞けるよい機会が持てたと思います」「普通なら聞き流してしまう表現にしっかり耳を傾けるのでとても自分のためになったと思う」

また、「小テストの点数を教えてほしい」（基礎）「もう少しテストの問題量があればよかった」（基礎）「右の人と左の人のむずかしさがちょっと違うのでは？」（基礎）「小テストやレポートを提出したあと返してほしいです。どこが間違っているか気になるから」（基礎）「レポートの返却があった方がいい」（中級）という要望も見られた。

Q 10. その他クラスに関して意見や感想があれば書いて下さい。

ここでは全般的に肯定的な意見が多かった。基礎クラスでは、「全般的に一番楽しい授業でした」「やりやすい授業だったと思います。ビデオとか見れてとても楽しい授業でした」「授業はとてもおもしろかったと思います。*Interchange*の方でわからない部分でも、最後にプリントを配って説明してくれたのがよかったと思います」「レポートを書く為に video を見ると英語を聞けるからとてもいいと思った。要約は大変だったけど変に“英語について”とかのレポートよりも100倍よい」「ビデオでアメリカなどの風景がみられてよかった」「もっと映画やゲームを見て楽しみたかったと思うけど、*Interchange*でアメリカの私生活の様子とかもあって、おもしろかったと思う」などがあつた。

中級クラスでは、「大好きな授業でした。また、うけたいです」「この授業はおもしろかった。また来年ちがう内容だったらとりたい」「とても楽しく一年勉強できました。この授業は毎回来るのがたのしかったです」「とてもこのクラスは気に入っていました。なぜなら、教材がどちらとも実用的ですぐに使えるものばかりだったからです。英訳などを中心にした授業とは違ってすごくためになるものでした。復習を試みる価値がとてもありそうなので、よく使うフレーズなどは是非覚えておきたいと思いました」「とても、この授業は楽しかったし、た

めになったと思います。*Family Album*の話が全部見るができなかったのがちょっと残念です」「先生のアメ리카での話とか聞けてとても楽しかったし、そういうのを教材に使っているのも良かったと思う。実際に役立つ英語を勉強できて興味が持てた」「ビデオを見ている時に私語とかあると聞き取りにくくて、むかつくけど、この授業ではほとんどみんな静かに聞いていたので真剣に聞けて良かったと思う」などがあつた。

また、生徒からは「もう少し小人数で授業をしてもいいと思う」(基礎)「いつも同じパターンで授業をすすめるのでなく、もっと違うこともとり入れて変化をつけてほしかったです。」(基礎)「説明の音が小さくて聞き取りにくかった」(中級)「*Family Album*は日常のシーンが中心となっているので、興味を持ってとりくめましたが、何度もまきもどして同じシーンを見るのはやりすぎだったと思います。ある1つの話なら話を1度ながして、全体的に見ていく方がストーリーもわかっていいと思いました」(中級)「後ろの席に決まってしまうと白板の文字がよく見えなかったので、好きな席に座らせてほしかった。あるいは席の希望を聞いてほしかった」という要望があつた。

6. まとめと今後の課題

このアンケート調査の結果、全般的には生徒からの肯定的な意見が得られた。まず、クラスのレベルに関しては「丁度よかった」と答えた生徒が多く、教材、授業内容や進度が生徒のレベルに合っていたと考えられる。

次にリスニング力(単語、表現力も含めて)を高める上で、多くの生徒が「役に立った」と答えた。役に立つ要素として 1. 実用的で生徒の興味やニーズを満たす内容 2. 単語や表現力が身に付けられる 3. 繰り返し聴け、理解できることなどが生徒の意見から考えられる。この項目では、特に基礎クラスの方で「あまり役に立たなかった」と答えた生徒(36.7%)が目立ったが、やはり一番の原因として、単語や表現力がさほど身に付かなかつたので、リスニング力が伸びなかつたと感じたようである。リスニングクラスで満足感を得る為には、今まで知らなかつた表現を授業の中で理解できるような機会を与えることが大切である。

教材に関しては、大部分の生徒は満足だつたようである。また、基礎・中級クラス共にビデオ教材は、内容が面白く、楽しく、役に立つという理由でテープ教材よりも人気があつた。調査の結果、リスニングクラスでは学習者のレベル、必要性などを考慮し、リアルな映像を提供できるビデオが非常に効果的(Stempleski and Tomalin 1990)であることがわかる。テープ教材 *Listen Carefully* は簡単という理由などから20%の生徒が「あまりよくない」と答え、*Listening Tasks* は実用的だが、レベルが少し難しいと感じた生徒が多かつた。

教材の内容を理解するための練習量は「丁度よかった」と多くの生徒が答え、授業の終わりには、殆どの生徒が教材の内容を理解していた。特に中級では、生徒の意見から *Listening Tasks* や *Family Album U.S.A.* のスクリプトが内容を理解する上で役に立ったことがわかる。

毎回の授業の速度は「丁度よかった」と感じた生徒が多かつた。(基礎78.8%, 中級71.9%) 基礎クラスでは「少し遅かつた」と答えた生徒が18.8%, 「少し早かつた」と答えた生徒が

2.5%であった。中級クラスでは「少し遅かった」が13.5%で、「少し早かった」が14.6%であった。これはおそらく、よくできる生徒にとって授業速度が遅いと感じ、レベルの低い生徒にとって「早い」と感じられたのかも知れない。この結果、中級クラスの方がクラス内のレベル差が若干大きいようである。

「授業中どんな違った練習を行ないたいか」との質問に対して、発音練習、映画やニュースを題材にしたリスニング、歌などを聞く練習を望んでいる生徒が多かった。発音練習に関しては、実際に授業中、スクリプトの一部を使い、特に生徒の知らない suprasegmental (linking, elision, assimilation, reduction, etc.) などを中心に教え、反復練習をしているが、マイクなど LL 機器を利用し、音声面をもっと強化することがリスニング力向上に繋がるのであればぜひ導入したいと思う。映画についてはキャプションなどを使う方法もあるが、authentic なものを理解させるには、語彙、ニュアンス、文の構造、発音、スピード、文化背景などを考慮しなければならない。さらに、講師が相当な時間をかけて授業を計画し、素材を選び、準備する必要がある。(Ur 1984) 歌に関しては毎学期1～2回授業の15分程度を使って、cloze type で歌を聞かせ、ディクテーションさせている。もちろんリスニング練習の目的ではあるが、たまに行なうことによって、気分転換を計り、授業のパターンを変化させる目的もある。定期的に行なってしまうと、授業の進度にも影響し、フォーカス(授業の目的)がずれてしまう恐れがある。

評価に関しては日頃の行い、努力が評価に繋がっているという点で納得した生徒が多く、小テストは定期テストに比べ負担が軽く、定期的に勉強する必要があるという点でメリットである。ただ、期末テストがないと、もう一度復習する機会を逃してしまうのでマイナス面もある。また、小テストを実施する際、カンニングを防ぐ為、二種類(A, B)のテストを作成したが、確かに数人の生徒が指摘したように、多少のレベル差があったかもしれない。人数がもっと少なければ、教室内で生徒を移動させ、一つのテストで実施できるが、40人以上いるクラスでは今の所、無理である。

レポートは大変だという意見があったが、結果的には生徒のリスニングを養う上で、役立ったと感じられる。

結論として、全般的に、全クラスを通じて多くの生徒にとって楽しく、面白く、役立った授業だったようである。ただ、特に基礎クラスに関しては、もう少しチャレンジなものを与え、生徒がわからないことを理解できるような教材、指導が必要だと感じた。言語学者の Krashen (1982) が提案しているように、学習者より少し上のレベルで教えるのが語学向上に最も望ましいと考えられる。また、中級クラスにおいても、アンケートで一部の生徒が述べたように、*Family Album U.S.A. Book 1* は少し簡単であったように思える。できれば今後 *Book 3* くらいの教材を使用したいと思う。

このようによりよい授業を行なう為には、生徒の意見を知り、改善する必要があるが、それだけではなく、生徒が自分のあったレベルで学習するのがベストである。そのような環境を作る為には、ぜひとも Placement Test が必要で、Placement Test なしでは、同じクラスでレベ

ル差が生じ、いくら講師がよい教材、教授法を駆使しても、誰に焦点を合わしたら良いのかが難しく、必ず授業のレベルに合わない学習者が出てくる。このような問題をなくすためにも、リスニングを向上させるには、教材、講師の質のみならず、まず生徒のレベルを把握する必要があるだろう。(Tsuda 1995)

このアンケートを通して、たくさんの生徒の意見を聞くことができ、非常に参考になった。今後とも生徒の意見を反映させるような教材選択、授業を行ない、リスニングクラスの改善・向上を計りたいと考えている。

参 考 文 献

- 「大学の外国語（英語）教育に関するアンケート調査報告」1995『大学英語教育学会』pp. 14-75.
- Kelty, J. (1991). *Family Album, U.S.A. Book 1*. New York: Macmillan, Inc.
- Krashen, S. (1982). *Principles and Practice in Second Language Acquisition*. New York: Pergamon Press.
- Richards, J. (1990). *Listen Carefully*. Oxford: Oxford University Press.
- Richards, J. (1994). *Interchange 1 Video Activity Book*. New York: Cambridge University Press.
- Schecter, S. (1984). *Listening Tasks For Intermediate Students of American English*. New York: Cambridge University Press.
- Stempleski S. and Tomalin, B. (1990). *Videos in Action: Recipes For Using Video in Language Teaching*. New York: Prentice-Hall.
- Tsuda, N. (1995). Effectively Constructing, Administering and Evaluating an Oral Placement Test for ESL/EFL Classes. *Paper presented at the 34th JACET annual convention*.
- Ur, P. (1984). *Teaching Listening Comprehension*. Cambridge: Cambridge University Press.